

厚生労働省委託

令和 7 年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 について



- 本事業では、各地域の医薬品提供体制の構築・維持に関する取組を推進。
- 事業は、全国事業（A申請）とモデル事業（B申請）の2区分で実施。B申請では、横展開のための方策も検討。A申請は全47都道府県、B申請は10地域で実施。

※B申請例：①在宅地域連携薬局グループの構築・拠点薬局の設置、②退院時カンファレンスへの薬剤師参加促進・情報共有ポータルサイトの構築等、③医師会・行政等と医薬品提供体制の在り方の協議体の設置

事業の目的

- ・地域において国民が必要とする医薬品を提供できる体制の構築・維持する観点から、**各地域の医薬品提供に関連する取組の推進**（例：地域で流通する医薬品情報・在庫情報等の把握・共有、在宅医療における医薬品提供体制に係る取組）
- ・モデル地区での都道府県薬剤師会による**地域の実情に応じた課題の把握、医薬品の提供体制に関する地域の取組の実施し、課題の解決策の分析、横展開のための方策を検討**する。

事業の枠組み

全国事業（A申請）とモデル事業（B申請）の2区分に分けて実施。

区分	事業内容	採択課題数
全国事業 (A申請)	<ul style="list-style-type: none"> ①地域における薬局機能の把握、情報発信体制の整備、体制整備に係る他職種・行政等からの相談窓口の設置 ②夜間・休日輪番制に対応できる薬局の整備・維持 ③地域で流通する医薬品情報・在庫情報等の把握・共有 ④在宅医療における医薬品提供体制に係る取組 ⑤離島・へき地の医薬品提供体制に係る取組 ⑥医薬品提供体制に係る多職種連携に関する取組 ⑦その他地域の医薬品提供体制を踏まえて必要と考えられる取組 	47課題
モデル事業 (B申請)	<ul style="list-style-type: none"> ・ モデル地区を設けて地域における医薬品提供体制の構築に取り組み、地域薬剤師会による課題・解決策の分析及び横展開のための方策を提案（課題例） ✓在宅地域連携薬局グループを構築し、拠点薬局を設置（埼玉県さいたま市、新座市、川越市、上尾市・伊奈町、飯能市・日高市） ✓退院時カンファレンスへの薬剤師参加促進、情報共有ポータルサイトの構築、麻薬譲渡体制の整備等を実施（鹿児島県南薩薬剤師会・大隅三地区薬剤師会） ✓医師会・行政等と医薬品提供体制の在り方の協議体を設置（愛知県東三河北部地区） 	10課題

A申請(全国事業)の取組み概要

(※47都道府県から5府県のものを抜粋)

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（栃木県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

- ✓ これまで当薬剤師会では、地域の薬局の開局時間・時間外対応の状況をとりとまとめ、夜間・休日対応が可能な薬局リストとしてホームページに掲載するなど、地域の医薬品提供体制に係る情報の公開や、研修会等の開催による在宅医療対応力の強化等について取り組んできていたところである。しかし、県内では人口減少が急速に進んでいる地域もあるなど、地域において限られた資源を有効かつ適切に活用し、必要な薬剤師サービスを継続的に提供できる環境を整えることが課題である。
- ✓ そこで県内12の各地域薬剤師会が、地域の課題を抽出、分析し、課題解決に向けた取り組みを進めることで、地域における医薬品の提供体制の構築を目指す。

主な実施内容

- ・全地域薬剤師会(12地域)が地域課題を踏まえ事業を実施
- ・事業は非会員も含めて実施
- 【情報発信体制への対応／ホームページ、ガイドブックの作成等】
- ✓ 地域薬剤師会のホームページやガイドブックを作成することで、薬局の機能に関する情報を発信
- ✓ ホームページのリンク等を利用し、行政、医師会等と情報共有
- 【地域で流通する医薬品情報・在庫情報等の把握・共有への対応／地域医薬品情報共有システムの構築等】
- ✓ 流通する医薬品の在庫や流通状況を把握するため、地域医薬品情報共有システムを導入
- ✓ アンケートによる医薬品情報・在庫情報等の把握、共有
- 【へき地の医薬品提供体制構築への対応／行政と連携したオンライン服薬指導の実施等】
- ✓ 行政等と連携して、オンライン服薬指導が必要な患者を抽出
- ✓ 公民館にオンライン設備を整え、周辺患者に対して公民館でのオンライン服薬指導を実施

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ 非会員を含む薬剤師、行政や多職種に医薬品供給に係る地域課題が認識された。
- ✓ ホームページの作成等による情報発信の強化
- ✓ システムの導入による地域医薬品情報の共有

【課題・今後の展望】

- ✓ 行政等と連携した協議会等の開催などにより、引き続き地域課題の解決に向けた取組を進める。
- ✓ 導入したホームページや情報共有システムの更なる機能の充実を図る。

実施体制

- ✓ 栃木県薬剤師会：地域事業の取りまとめ・支援等
- ✓ 全地域薬剤師会：事業の企画立案、実施等
- ✓ 栃木県：地域会議等への出席、助言等
- ✓ 関係市町、団体等：地域会議・研修会への参加等

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（岐阜県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

- ✓ これまで在宅訪問に関する資質向上と多職種連携に取り組んできたが、地域の薬局機能や場面に応じた医薬品提供などに課題があるため、多職種団体とも協議して、対応可能な薬局情報の収集・提供体制と医薬品供給体制の整備に取り組んだ。

実施内容

【薬局機能と医薬品供給体制整備への対応／システム導入による薬局機能と医薬品情報の把握（岐阜県薬剤師会）】

- ✓ 薬局・地域でのアクションリストの点検・現状把握と対応検討
- ✓ 薬局機能の把握とリスト化、夜間・休日の薬局機能の定期的な更新体制の整備を実施
- ✓ 地域医薬品情報共有システムの選定と地域薬剤師会への先行導入

【地域薬局機能の戦略的可視化と医療連携強化による持続可能な医薬品供給体制の確立（岐阜市薬剤師会）】

- ✓ 地域内全薬局を対象として薬局機能の体系的把握とリスト化及び視認性の高い情報を公開
- ✓ 夜間・休日や災害時等の急性期の薬剤リストの作成と可視化
- ✓ 医師会等医療関係団体・主要病院・行政との医薬品情報の共有と多職種連携による医薬品供給体制の整備

【週末の新規麻薬投薬への対応／地域の麻薬小売業者間譲渡の活用とグループ化（大垣薬剤師会）】

- ✓ 地域内の多職種を対象として、麻薬供給体制に関する協議を実施
- ✓ 麻薬取扱いに関する手引きを作成、薬剤師・多職種と共有するとともに公開
- ✓ 麻薬小売業者間譲渡許可のグループ化により地域全体をカバー

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ 分譲システム参加薬局率78.4%（県薬）
97.9%（岐阜市薬）
 - ✓ 麻薬小売業者間譲渡グループ化 16→44薬局
- ### 【課題・今後の展望】 全体的な展望
- ✓ 分譲システムの運用を継続するとともに、地域内薬局、他地域薬剤師会への導入拡大を図る。
 - ✓ 地域における医薬品情報を活用して地域フォーミュラ等を検討する。
 - ✓ 多職種・団体との連携を促進する。

実施体制

- ✓ 岐阜県薬剤師会：総括、企画立案、県内全域への薬局機能・流通医薬品情報の把握、発信体制の整備と高山市薬へのシステム導入
- ✓ 岐阜市薬剤師会：多職種団体と連携しつつ薬局機能の把握発信、地域医薬品情報システムの導入
- ✓ 大垣薬剤師会：在宅における麻薬提供体制の整備
大垣医師会等との連携

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（京都府薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

- ✓ これまで当薬剤師会（以下「当会」という。）では「薬局機能一覧のホームページ掲載」、「医薬品在庫検索システムの運用」、「休日当番薬局の輪番制作成」、「在宅医療・多職種連携」について取り組んできていたが、地域住民や行政への周知、ホームページの視認性、地域の薬局間および他職種との連携の強化などが課題であった。
- ✓ そこで地域の薬剤師会とも連携しながら上記課題の解決に取り組み、医薬品の提供体制を構築することを目的として実施した。

実施内容

【薬局機能一覧等の視認性の低さへの対応／地域における薬局機能の把握（リスト化）・地域での活用、体制整備に係る他職種・行政等からの相談窓口の設置】（全域、非会員含む）

- ✓ 京都府薬剤師会ホームページを改修し、機能を拡充
- ✓ リフレットを作成し、行政・多職種へ周知
- ✓ 地域薬剤師会ホームページの作成及び相談窓口設置を推進

【近隣薬局の医薬品在庫検索システム構築への対応／地域の医薬品情報の把握・共有】（全域、非会員含む）

- ✓ 現状の医薬品情報共有システムの運用と推進

【地域での医療資源の有効活用への対応／地域の医療体制と薬局機能の分析・課題発掘及び対応策の検討（地域／場面ごとに検討）】（全域、会員のみ）

- ✓ 当会にて医療機関・訪問看護・薬局機能のリストを作成し、地域薬剤師会へデータ提供を行うことで、課題抽出・対応策検討を支援

【夜間・休日等の薬局における医薬品提供体制構築対応／休日・夜間における医薬品提供体制の構築・強化】（全域、非会員含む）

- ✓ 救急医療体制（1次・2次）のリスト化
- ✓ 夜間休日等の当番薬局一覧を収集し、公開準備を進めた

【地域の薬局における在宅患者への医薬品提供体制及び在宅医療提供体制の整備対応／在宅医療における医薬品提供体制に係る取組（医薬品提供体制に係る多職種連携を含む）】（全域、会員のみ）

- ✓ 当会にて全薬局にアンケートを実施し、在宅医療対応薬局の機能を整理、退院時カンファレンス・多職種会議の参加状況を把握。データを地域薬剤師会へ提供することで、課題抽出・対応策検討を支援
- ✓ 在宅医療・多職種連携の研修会を開催

【へき地、薬局がない地域への対応／離島・へき地、薬局がない地域への対応に係る取組】（全域、会員のみ）

- ✓ 地域薬剤師会にて無薬局地域でのオンライン服薬指導・訪問薬剤師による対応状況を把握
- ✓ 今後の無薬局地域増加に備えた情報を収集

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ ホームページの改修により閲覧数が増加 1,535件（令和7年8～9月）→ 1,878件（令和7年12～令和8年1月）
- ✓ 医薬品情報共有システム登録薬局が450件 → 495件 に増加。
- ✓ 在宅医療・多職種連携の研修会の研修会を計16回開催

【課題・今後の展望】

- ✓ 医薬品情報共有システムの刷新
- ✓ 休日当番薬局の輪番制が整備途中
- ✓ 地域薬剤師会ホームページの整備、相談窓口の設置が一部未対応
- ✓ 地域医療体制と薬局機能の課題抽出、在宅医療・多職種連携の強化

実施体制

- ✓ 京都府薬剤師会：企画立案、制作、運営
- ✓ 地域薬剤師会：研修会開催、課題及び対策検討
- ✓ 地域の医師会、地域包括センター、病院、行政、消防署：その他協力

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（鳥取県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1

2

3

4

5

6

7

背景・目的

- ✓ 医薬品卸の土日祝配送停止、卸に備蓄がない場合、翌日以降の手配等、迅速な医薬品供給困難
- ✓ 高額保冷品は薬局での常備が困難
- ✓ 地域全体で安定的かつ切れ目のない医薬品供給体制を構築することが目的
- ✓ 人口減少・医療資源減少が進む中、地域住民への薬剤師サービスの継続的な提供が課題です。中部では医薬品卸の事業所撤退などがあり供給困難なケースが多い。休日・夜間および在宅医療における医薬品提供体制の強化と多職種連携の促進が必要に。そこで地域の訪問看護師・介護職とも連携しながら、医薬品の提供体制を構築することを目的として実施した。
- ✓ これまで当薬剤師会では地域住民や医療機関に対し、在宅に関連する薬局機能の情報提供を進めてきたが、利用者やケアマネージャー、各医療機関職員が、連携可能な薬局の情報を十分に把握できていない現状があった。
- ✓ 各薬局の機能を整理した「薬局機能一覧冊子」を作成・配布することで、ケアマネージャーや医療機関職員が必要な薬局機能情報を容易に入手できる環境を整え、薬局と多職種との連携を強化することを目的として実施した。

実施内容

【保冷医薬品への対応／保冷库温度管理センサーの導入】

- ✓ 保冷品の譲渡に当たり、品質管理を徹底するための保冷库温度管理センサーを設置。

【災害・停電時の医薬品供給体制構築への対応／蓄電池の導入】

- ✓ 災害・停電時にも安定的な医薬品供給体制を維持するため、太陽光パネル蓄電池を設置。

【小分け対応医薬品の選定／小分け対応医薬品リストの作成】

- ✓ 保冷品-即効型インスリン製剤を採用（当日に対応が必要）
- ✓ 緊急性の高い医薬品として、ラゲブリオ錠400mgを採用。

【事業の周知／東部圏域会員施設への案内・HPへの掲載】

- ✓ ホームページに事業の概要、小分け対応医薬品リストを掲載。
- ✓ その旨、東部支部会員施設にファックス、メールで周知。

※実施地域：鳥取県東部圏域

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ 夜間・休日、停電・災害時においても継続的に医薬品提供拠点として機能できる体制の確立。
- ✓ 東部圏域内の医薬品供給網の強化。

【課題・今後の展望】

- ✓ 保冷库の卸への返却は不可のため、課題を残す。
- ✓ 次年度以降の取組
→運用実績を検証、医薬品供給データや薬局からのフィードバックを共有することで体制を継続的に改善。

【成果・効果】

- ✓ 訪問看護STとの検討会を3回実施。
アンケートには46名の回答あり、課題の抽出。
協議会では13ST中11ST参加に成功。
- ✓ ケアカフェくらよし82名の参加に成功。

【課題・今後の展望】

- ✓ 訪問看護師と共通ツールの登録・使用の促進。5つの課題に対して協議会を開催予定。
- ✓ 多職種で構成されるケアカフェくらよし運営協議会が中心となり、次年度以降もケアカフェの開催。

実施内容

【訪問看護師との連携への対応／鳥取県中部圏域における訪問看護師と薬剤師連携の協議会】

- ✓ 「鳥取県中部圏域における訪問看護師と薬剤師連携の協議会」を立ち上げ、薬剤師会、訪問看護師とともに意見交換をし、訪問看護師との連携における課題の抽出を実施
- ✓ 課題抽出アンケートの結果報告会を開催、今後の競技の内容を「5つの協議ポイント」に絞り、具体的な方策を協議

【介護職種との連携への対応／第25回ケア・カフェくらし記念講演会】

- ✓ 現在行われている地域包括センター主催のケアカフェくらしを今回薬剤師会主体で実施し、介護関係者とともに意見交換をし、在宅現場での現状の理解と課題の抽出を実施
- ✓ ACPを主題としたケアカフェの開催により多職種の意見交換を行った。

※実施地域：中部圏域

【在宅における多職種への薬局機能の周知】

- ✓ 介護支援事業所や地域連携室を有する医療機関を対象として、「薬局機能一覧冊子(以下、本冊子)」を用いた在宅における薬局機能に関する周知を実施し、本冊子の配布効果により薬局薬剤師の活用・連携についての理解が深まったか調査する。

※実施地域：西部地区

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ 「薬局機能一覧冊子」の配布を通じて、薬局薬剤師の役割の整理および多職種連携への意識向上に寄与をしたものと評価できる。
- ✓ 相談意欲の向上という具体的行動変容が示唆されており、今後の在宅医療における薬局薬剤師の有効活用につながるのではないかと考えられた。

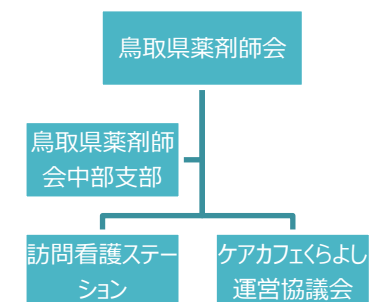
【課題・今後の展望】

- ✓ 問い合わせ・連携件数の変化および事例収集は時間的制約により実施できなかった。
- ✓ 質的・量的の両面から在宅における薬局薬剤師の役割について検証を進めていく。

実施体制

- ✓ 鳥取県薬剤師会東部支部：企画立案、運営
 - ✓ 急患医療委員会：運用管理の取りまとめと報告
 - ✓ 休日夜間薬局：小分け対応・在庫管理
 - ✓ 民間業者A：納品・返品対応
 - ✓ 民間業者B：蓄電池の設置・メンテナンス
- ※組織図は実績概要3ページ目を参照

- ✓ 鳥取県薬剤師会：企画立案
- ✓ 鳥取県薬剤師会中部支部：計画実行
- ✓ 鳥取県中部圏域訪問看護ステーション：協議参加
- ✓ ケアカフェくらし運営協議会：計画実行参加



- ✓ 鳥取県薬剤師会西部支部：企画立案、取りまとめ
- ✓ 実施委員会：冊子の企画・作成、内容確認
- ✓ 会員薬局：機能情報の提供、原案確認・修正
- ✓ 医療機関・ケアマネジャー：意見提供、活用評価
- ✓ 西部支部事務局：印刷・配布、アンケート実施・集計の補助

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（高知県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1

2

3

4

5

6

7

背景・目的

- ✓ これまで当薬剤師会では、在宅訪問薬剤師の養成やスキルの向上について取り組んできていたが、医療・介護リソースの高知市への一極集中や、高齢化が進む中山間地域における在宅患者への医薬品の提供や服薬管理等の在宅ニーズへの対応などが課題であった。
- ✓ そこで地域の他職種と検討会を設置し、多職種連携体制の整備、強化による医薬品提供体制等の構築を目的とすることとした。

実施内容

【事業目的の共有と地域課題の掘り起こしと事業の推進／多職種連携高知県（県レベル）検討会の設置】

- ✓ 事業目的の共有や事業を円滑に推進するため、他職種3団体の長や県行政、薬剤師会役員で組織する「多職種連携高知県検討会」（県レベル検討会）を設置
- ✓ 在宅患者への医薬品提供や服薬管理等に関する課題等のアンケート調査を実施し、結果を共有
- ✓ 報告会を開催して、各地域での検討内容の報告を受けて、次年度の取組等について確認

【地域課題への対応／多職種連携地域検討会】

- ✓ 地域課題への対応を協議する場（多職種連携地域検討会）を設置し、上記アンケート結果を基に、現状・課題を把握し、その対策等について意見交換を実施
- ✓ 実施地域（高知市支部、安芸支部、幡多支部の3地域）

【薬局機能や相談窓口の見える化／ホームページの改修】

- ✓ 薬剤師会ホームページに、アンケートや検討会の意見を反映した、他職種向けのページを設置、充実した
- ✓ 薬局機能（在宅、時間外対応等）や相談窓口の見える化

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ アンケート調査の実施（211名より回答）
- ✓ 県レベル2回、地域検討会4回、報告会開催
→行政と多職種間による、地域課題の整理と、課題解決に向けた対応策と今後の具体的取組が確認できた

【課題・今後の展望】

- ✓ 地域検討会で決定した内容の実践により、在宅患者への医薬品提供体制のさらなる強化を図る
- ✓ 特に、連携ツールを用いた事業（お薬P J）や医療DXを活用した体制整備を進める
- ✓ 薬局や薬剤師の在宅対応力の平準化を図る研修内容を検討
- ✓ 多職種間での情報共有、気軽に相談できる体制整備に向けた検討を継続

実施体制

- ✓ 別添、実施体制図（資料⑥）参照

B申請(モデル事業)の取組み概要

(※10都県全て)

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（埼玉県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

- ✓ 「地域で流通する医薬品情報・在庫業況等の把握・共有」を系統的に実施する薬局が少なく、その弊害として在庫のない医薬品を含む処方箋が持ち込まれた際、在庫のある他薬局を探す薬局および患者の負担は計り知れない。
- ✓ これを解消するために、埼玉県薬剤師会として、利便性の高い在庫共有システムに関する情報収集を行い、在庫の共有に関する推奨メーカーを提示し、各地域において医薬品の情報共有ができる体制を構築することを目的とした。
- ✓ 在宅医療等に係る夜間・休日の医薬品提供体制の不足、訪問困難地域があるため、モデル事業により在宅対応に係る医薬品提供体制の構築・強化をはかることを目的とする。

実施内容

【システム導入への対応／情報収集】

- ✓ 在庫管理システムについて、3社から説明を受け、各システムに関する情報収集および推奨メーカーを検討

【システム導入への対応／地域薬剤師会への周知】

- ✓ 地域薬剤師会代表者を対象として、地域医薬品提供体制強化のためのアクションリストに関する説明会を開催
- ✓ 在庫管理システムに関する情報提供、問合せ対応実施

【在宅医療における医薬品提供体制の対応／ HCG（在宅医療連携薬局グループ）構築事業】

- ✓ 5地域7地区にHCGを構築し、各グループに拠点薬局を設置。緩和医療における夜間休日を含む医薬品提供体制の強化。

【在宅医療における麻薬調剤・無菌調剤への対応／ 緩和医療研修会】

- ✓ 会員非会員を問わず全地域を対象としてオンライン研修会を実施

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ 37地域のうち、30地域においてシステムを導入、稼働開始
- ✓ 5地域7地区にHCGを構築、拠点薬局を設置し医薬品供給体制強化をはかった

【課題・今後の展望】

- ✓ 各地域薬剤師会の運営体制が異なる点が課題としてあがった。
- ✓ システム導入開始が想定より遅れ、「システムの活用実績、患者に医薬品を供給できた実績」による評価を実施できなかった。
- ✓ 次年度以降は、実際の稼働率、運用状況を確認し、定期的な更新がなされているかを継続的に調査していく予定。
- ✓ HCGを構築するにあたり地域によって進捗状況に差ができた。
- ✓ アンケート結果から在宅や注射薬調製の基本的な事項及びHCG内共有事例を含めた研修会(説明会)を開催し、次年度以降は、他地域での事業を進める予定。

実施体制

- ✓ 埼玉県薬剤師会：企画立案、在庫管理システムに関する情報収集、推奨メーカーの検討、地域薬剤師会への情報提供、問合せ対応
- ✓ 地域薬剤師会（37地域）：医薬品提供体制構築のための各地域における在庫共有方法の検討、構築
- ✓ モデル地域薬剤師会（5地域）：地域ごとの検討会の開催・運営、HCGの構築、拠点薬局の設置、グループ内規約の作成、麻薬グループの届出、多職種連携会議の開催

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（東京都薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

【背景】

医薬品流通の混乱は収束の兆しを見せず、薬剤師には本来の業務を超えた負担や不当なハラスメントが生じている。加えて、社会の変化や医療の多様化に伴い、薬剤師には従来以上に広い視点と柔軟な対応が求められている。こうした課題と新たな期待が交錯する中、薬剤師が果たしてきた努力や役割は十分に国民、ひいては関係職種に伝わっていないという背景がある。

【目的】

薬剤師は「自分たちがしっかりと医薬品をグリップして国民が安全に医薬品を使える体制を確保する」という覚悟・矜持を持つを合言葉に、薬局単位にとどまらず、その力を地域全体の健康を支える原動力へと広げていくことを目指す。その実現に向け、東京都薬剤師会と地区薬剤師会という二層の薬剤師会が、これまで以上に自らの立場を過不足なく背負い、責任を果たすことで最大限の成果を挙げるために東京都薬剤師会が支援を行っていく。

このことにより、いまなお医薬品流通障害などの課題によって妨げられている、薬剤師法第1条に掲げられた「医薬品の供給をつかさどる」という使命を、地域において揺るぎなく実践できる体制を築き上げることを目的とした。

実施内容

東京都全域を二次医療圏ごとに分け、「地域医薬品提供体制強化のためのアクションリスト」に基づいて地域薬局の実態調査を行い、その結果について議論する「地域医薬品提供体制強化のためのブロック会議」（以下、ブロック会議）を開催した。

ブロック会議は、2025年9月・11月、2026年2月の計3回実施した。会議のファシリテーションは、東京都薬剤師会が割り当てた、その地域とつながりがある役員が担当した。

各ブロック会議では、ファシリテーターが地域ごとの現状や課題を抽出した。その後、速やかにファシリテーターによる「都薬担当者会議」を開き、東京都薬剤師会としてフォローアップが必要な点や（別添4、5参照）、他地区にも広げるべき好事例を共有した。

このサイクルを繰り返すことで、地域の担当者は自地区の特徴や改善点を的確に把握でき、あわせて近隣地区の状況についても理解を深めることができた。

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

ブロック会議現段階で3回開催、非参加地区なし
その他は資料（別添2）参照

【課題・今後の展望】

地区ごとに事業への取組状況や理解度、地域の体制整備状況に大きな差異が存在するため、東京都薬剤師会が主体的に方向性を示し、情報共有と支援体制の強化を図りながら、地区間の格差是正および全体水準の底上げをリードしていく。

実施体制

東京都薬剤師会：地区担当者会議の開催、ブロック会議の開催と運営、都薬担当者会議の開催、他団体への協力要請（日本チェーンドラッグストア協会、日本保険薬局協会）

東京都薬務課への協力要請

地区薬剤師会：地域ごとの運営会議開催・ブロック会議参加、都薬への報告

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（長野県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

人口減少社会の中、過疎化の進展、医療資源の減少などの構造的変化が進んでいる。変わりゆく社会環境の中で、地域において限られた資源を有効かつ適切に活用し、地域住民のために必要な薬剤師サービスを継続的に提供していくため、これまで各薬局の個々の努力により、また薬剤師会組織による会員相互扶助の観点で取り組んできた医薬品・薬剤師サービス提供を「地域体制」の観点から再点検・再構築する必要がある。日本薬剤師会が策定した「地域医薬品提供体制強化のためのアクションリスト」においても、薬局間の連携と、薬局間連携の核となる地域薬剤師会の役割が重要となることから、全国約800ある地域薬剤師会での確実な実現を求めている。医薬品提供体制強化に向け、地域の実情に応じた取り組みを推進し、各地域における課題を解決することを目的とし、地域薬剤師会と連携して取り組みを行った。

実施内容

本会では、関係行政、他職種関係団体に薬局機能リスト等の周知を行うとともに、地域薬剤師会に薬局機能リスト等の周知に必要な資材を配布した。また、県内の保険薬局（会員外を含む）に、日本薬剤師会「地域医薬品提供体制のためのアクションリスト」について周知するとともに、本事業への協力を依頼した。また、地域薬剤師会ごとに課題抽出を行い、その課題を解決するため下記事業を実施した。全地域薬剤師会に意向を確認した上で、県内14地域薬剤師会のうち下記10地域薬剤師会で事業を実施した。

- 【長野市薬剤師会】ホームページの改修
- 【北信薬剤師会】ホームページ開設
- 【上田薬剤師会】へき地の医薬品提供体制に関する取組
- 【佐久薬剤師会】医薬品共有システムの導入による医薬品情報の把握・共有、行政との連携、情報の可視化と活用（B申請事業）
- 【松本薬剤師会】医薬品共有システムの機能追加・薬局機能リストの周知
- 【安曇野薬剤師会】ホームページの改修
- 【岡谷薬剤師会】ホームページの改修
- 【諏訪薬剤師会】ホームページの改修、在庫共有システム検討
- 【上伊那薬剤師会】ホームページの改修
- 【飯田下伊那薬剤師会】医薬品情報共有システムの改修

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

本事業により、各地域の薬局機能等についての周知を行うことで、地域における医薬品の安定供給体制が強化される。また、医療機関や薬局間の連携が円滑になり、必要な医薬品を迅速に提供できる体制が整備された。

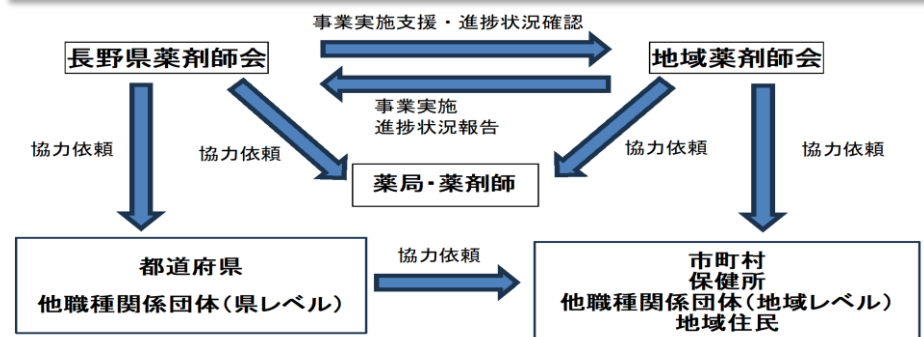
その結果、地域全体の医療サービスの質が改善されることが期待される。

【課題・今後の展望】

各地域により課題が様々であることから、地域薬剤師会ごとに課題抽出を行ったうえで事業を実施する。

次年度以降の事業実施にあたっては、持続可能なものとするを予め共通認識として実施することとしている。

実施体制



令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（愛知県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

- ✓ 愛知県薬剤師会では令和5年3月に「愛知県薬剤師会重点事業計画2028（あいやくVISION2028）」を策定し、「愛知県薬剤師会地域医薬品提供情報共有システム（通称「アルカモネ」）」の運用を開始するなど「地域医薬品提供体制」の構築を進めているが不十分な状況にあることから、本県内における医薬品提供体制の構築を進める必要がある。

実施内容

- （全体事業）** ※実施地域：県下全域（③は名古屋市東区）
- ①【「アルカモネ」の県下全域への普及促進による地域医薬品情報共有体制及び地域における薬局機能情報発信体制の構築事業】**
- ✓ 「アルカモネ」の機能強化（検索機能向上・アップロード機能向上）
 - ✓ 「アルカモネ」普及活動（パンフレット作成・説明会・薬局訪問レポート）
- ②【地域での在宅医療等の多職種連携に係る「相談窓口薬局」構築事業】**
- ✓ 「相談窓口薬局」実態調査、「好事例集」作成
 - ✓ 推進活動 研修会開催 モデル地区で推進
- ③【地域での薬局間連携による医療用麻薬提供体制（薬局間譲渡グループ体制）の構築事業】**
- ✓ 「医療用麻薬提供体制」実態調査、「好事例集」作成
 - ✓ 推進活動「麻薬譲渡グループ化リスト」モデル地区で推進
- ④【「アルカモネ」を活用した多職種連携による地域医薬品提供体制の推進事業】（名古屋市東区薬剤師会）**
- ✓ 「アルカモネ相談窓口薬局」（推進医療機関からの問合せ対応）
- （モデル事業）** ※実施地域：東三河北部地区
- 【へき地等の無薬局地区等における地域医薬品提供体制の構築モデル事業】** ✓ 実態調査 検討会議開催

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ 「アルカモネ」普及・機能強化
→地域フォーミュラの推進へ
- ✓ 「相談窓口薬局」モデル地区で推進
→在宅医療多職種連携の推進
- ✓ 「麻薬譲渡グループ化」モデル地区で推進
→麻薬提供体制構築推進
- ✓ 「アルカモネ相談窓口薬局」
→アルカモネを活用した医療機関連携の推進
- ✓ 「へき地等の医薬品提供体制」の推進

【課題・今後の展望】

- ✓ モデル地区の成果を基に県下全域で推進

実施体制

- ✓ 愛知県薬剤師会：実態調査実施、好事例集作成
説明会・研修会開催（地域薬剤師会へ周知）
- ✓ 各地域薬剤師会：モデル地区で事業実施
地域ごとに事業実施

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（兵庫県薬剤師会）

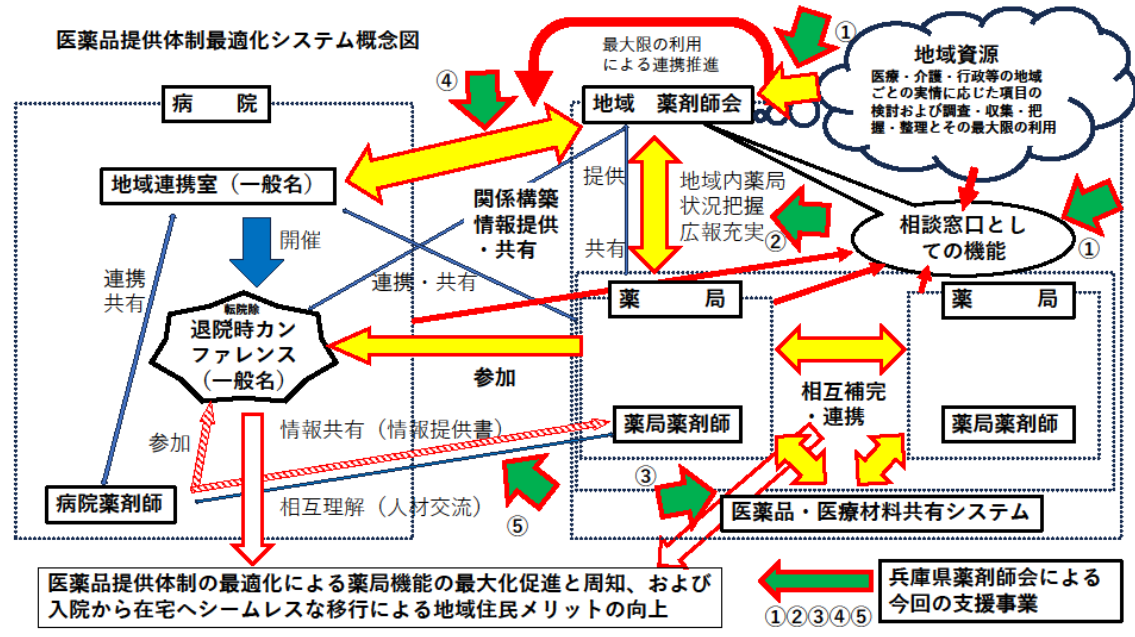
区分：	A申請	B申請					
対象事業：	1	2	3	4	5	6	7

背景・目的

- ✓ 置かれている状況が違う都会部から山間部までを抱える県として利用可能な様々なリソースを33の地域薬剤師会を県薬剤師会として協力補完し、安定かつ効率的な医薬品・医療材料等も含めた供給体制の確立を目指す。
- ✓ 県病院薬剤師会が県薬剤師会に合流して9年が経つ。今後よりシームレスに連携し相乗効果を発揮することを目指す。

実施内容

- ①【地域の医療資源の調査・整理及び把握・連携のための支援】
- ②【地域の医療資源に対応する薬局機能の公表強化と連携強化を支援】
- ③【地域で流通する医薬品情報・医療材料等の状況把握・共有】
- ④【在宅医療における医薬品提供体制において薬剤師間及び多職種連携を推進するとともに住民のシームレスな在宅移行を支援】



これまでの成果・効果、今後の展望等

- 【成果・効果】**
- ✓ 地域資源の体系的な収集・整理およびリスト化
 - ✓ LICLE兵庫県が始動
 - ✓ 人材交流実施、地域支援室との協議を病院薬剤師と共に3地域支部が開始した。
- 【課題・今後の展望】**
- ✓ ホームページ改修については検討までで実施できず。次年度対応予定
 - ✓ 次年度以降県下全域に向けてLICLE兵庫県を順次導入予定

実施体制

- ✓ ①②：兵庫県全域（地域支部、33薬剤師会）
- ✓ ③：兵庫県全域（西宮支部、播磨支部より開始）
- ✓ ④：地域連携：兵庫県全域（3支部（都市部：神戸支部、地方都市部：播磨支部、山間部：但馬支部より開始）
- ✓ ⑤：人材交流：兵庫県全域

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（奈良県薬剤師会）

区分： A申請 B申請

対象事業： 1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

・医薬品の品質不正問題に端を発した多くの医薬品の製造の一時停止や制限による供給不足、新型感染症やインフルエンザ等の流行による解熱鎮痛剤、風邪薬などの需要の急増、さらには原料などを海外に依存している医薬品のサプライチェーンの問題による供給の遅れにより、必要な患者さんに必要な医薬品が十二分に供給されない状態が、数年来続いており、このことが薬局の本来の業務以外の業務として上乗せされ、これが2割を超えたとの報告もある。地域の薬局同士が連携し、必要に応じて医薬品を融通しあう体制の構築は、今や喫緊の課題でもある。

・また、患者さんへの対人業務が増加する中、ICT化により相互連絡並びに情報共有を効率化し、これまでかかっていた業務についても、わかりやすく、かつ簡素化・効率化を図ることで、増加する一方の業務の見直しを恒常的に図ることも必要である。

・そこで、支部単位では地域の医薬品提供体制を構築することが困難なことから、県薬が主体となって体制構築を進めた。

実施内容

<現状と課題(1)>

各地区薬剤師会として、主体的に医薬品の確保のための情報共有に取り組んでいるところもあるが、一部の薬局間に限られ、またその作業に膨大な作業と時間がかかっている。

<現状と課題(2)>

これまでは地域全体の医薬品情報のリアルタイムの把握という概念が十分に浸透しておらず、したがって、医薬品の情報共有による供給システムがあっても、手間やコストに比べて有益性が認められず、薬局の参加率も低率で精度にかける状況である。

<現状と課題(3)>

薬剤師会としては会員の利益のために多くの事業を行っているが、そもそも薬局の存在意義は単に処方箋に基づき薬を調剤するだけでなく、地域の住民の健康を支える重要な役割を担うことである。医療材料等についても適宜供給が必要。

<現状と課題(4)>

薬局等において把握している退院患者等のアドヒアランスや残薬の状況、複数病院の受診状況、OTCや健康食品の服用などの情報は薬局の情報として把握しているだけで、「患者のための情報」として患者のために十分活用されていない。

事業の実施

①地域で「どこに何がどれだけあるのか」を即座に地区単位だけでなく、距離単位で把握し、必要により分譲書の発行を含め、在庫融通等に資する。本会地域連携委員会、情報委員会で検討。

②西和地区では、手作業で地域の医薬品情報を取りまとめ提供していたが、手間とコスト大きく、月1回の共有しかできていない。その間情報は陳腐化しており、手間とコストの割には実効性がない。この手間とコストをできるだけ排除し、セキュリティを含め、各薬局がより参加できる敷居を下げる取り組みを実施。

③大和高田・葛城地区で、薬局並びに訪問看護ステーションに地区の医療材料の供給等についてのアンケートを実施し、薬局・訪看でのニーズを調査するとともに、在宅医療を含め多職種と連携して地域医療に貢献するための、システム構築を行った。

④事前合意のトレーシングレポートの活用をはじめ、基幹病院を中心として、吸入指導や心不全患者の再入院の防止を、プラットフォームを活用し薬薬連携を進めた。

これまでの成果、今後の展望等

【成果・効果】

- ようやく緒に就いただけで今後さらに多くの薬局等の導入を促す

【課題・今後の展望】

- 薬薬連携や医療材料については、今回は、基幹病院として高田市立病院を地域として大和高田・葛城地区をモデル地域として選定したが、今後益々高齢化が進展し、2040年問題が叫ばれる中、他の地域へも展開していく予定。

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（広島県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

本事業は、地域において住民が必要とする医薬品を適切かつ継続的に提供するための体制を「地域体制」として確立することを目的とする。とくに、薬局・薬剤師の機能を面的に把握し、地域内で共有・連携することで、在宅・夜間・休日等における医薬品提供体制を維持・強化することを目指す。地域によって薬局の対応能力（夜間・在宅・備蓄等）に偏りなく、医薬品提供における不均衡が無いよう、体制を整備・構築していく。

実施内容

1. 地域における薬局機能の把握、情報発信体制の整備、体制整備に係る他職種・行政等からの相談窓口の設置
2. 夜間・休日輪番制に対応できる薬局の整備・維持
3. 地域で流通する医薬品情報・在庫情報等の把握・共有（上限額を設ける想定。）
4. 在宅医療における医薬品提供体制に係る取組
5. 離島・へき地の医薬品提供体制に係る取組
6. 医薬品提供体制に係る多職種連携に関する取組

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ・薬局情報掲載薬局数 90%→92%
- ・周知用資料を作成し、行政と連携して配布
広島県医師会、広島県歯科医師会、広島県看護協会、行政へ配布済

【課題・今後の展望】

- ・経過報告会を3回開催した結果、変更による情報更新が増加した。

実施体制

広島県薬剤師会（常務理事会・医薬品提供体制WG）



地域薬剤師会（13支部）



薬局群（会員・非会員）

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（鹿児島県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1 2 3 4 5 6 7

背景・目的

- ✓ これまで当薬剤師会では多職種連携、在宅療養継続に必要な医薬品供給体制の構築について取り組んできていたが、地理的困難性、高齢化の進行に伴う在宅医療ニーズの増大、持続可能な医療供給体制の維持などが課題であった。
- ✓ そこで地域の医療機関や医師、看護師、ケアマネジャーなどの各専門職とも連携しながらかかりつけ薬局や薬剤師の機能向上について取り組み、医薬品の提供体制を構築することを目的として実施した。
- ✓ 医療資源の豊富な地域では、医薬品供給体制や医療機関との連携の強化により地域医療へ貢献する。一方、資源が少ない地域では多職種連携を深化させ、限られた資源の最大活用を図る。

実施内容

【まちの薬局プロモーション事業】

- ✓ 地域住民向けに、かかりつけ薬局の必要性や大腸がん検査の受付など薬局が取り組んでいる身近な事業等に関する周知を実施
- ✓ 市町村ホームページとの連携、市報や広報誌への掲載

※大腸がん検査の受付実施地域：鹿児島市薬剤師会

【夜間・休日輪番制に対応できる薬局の整備・維持】

- ✓ 地域内の薬局へ、夜間・休日輪番への参加意思について調査を行い、輪番制の再構築
- ✓ AI等のデジタルツールを用いた輪番体制の効率化

【在宅医療及び離島・へき地における医薬品提供体制に係る取組】

- ✓ 訪問看護ステーションや地域包括支援センターとの連携強化
- ✓ 地理的な条件によって医薬品の供給に時間を要する地域において、麻薬の在庫がない場合でも他の薬局から迅速に譲り受けることが可能なように、麻薬小売業者間譲渡グループの広域化や譲渡許可取得の申請を行った。

※実施地域：南薩薬剤師会、熊毛薬剤師会

【基幹薬局を中心とした医薬品提供・退院時カンファレンス参加体制整備】

- ✓ 在庫共有システム「Triton」の導入・活用

※実施地域：南薩薬剤師会

【多職種協働による地域医療改善ポータルサイトの構築・運営】

- ✓ 情報発信プラットフォームとなるクローズドウェブサイト「WaLink（ワリンク）」を構築※実施地域：大隅三地区（鹿屋市・肝属・そお）薬剤師会

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

- ✓ 熊毛地区(離島)において、薬剤師会が主導し麻薬小売業者間譲渡許可取得の申請を行った(参加薬局数 2 ➡ 7へ増加)
- ✓ 南薩地区において、基幹薬局薬剤師が1件の退院時カンファレンスへ同行。在庫共有システムを活用して基幹薬局が巡回を行ったことで、前年の同時期と比較して医薬品の分譲が38(うち麻薬36)件・1,341,900円分増加した
- ✓ 大隅地区において多職種合同研修会を2回開催し、参加者数120名を達成

【課題・今後の展望】

- ✓ 次年度以降、麻薬譲渡グループの再整備やデジタルツールの活用、奄美地区における「ゼロ次救急」事業を継続的に実施予定

実施体制

- ✓ 鹿児島県薬剤師会：企画立案、情報提供
- ✓ 県内の全地域薬剤師会：A申請事業実施
- ✓ 南薩・大隅三地区薬剤師会：B申請事業実施
- ✓ 県内の関係他職種：検討会、合同研修会の実施等

令和7年度 地域医薬品提供体制構築推進事業 事業実績サマリー（沖縄県薬剤師会）

区分：

A申請

B申請

対象事業：

1

2

3

4

5

6

7

背景・目的

- ✓ これまで当薬剤師会では、地域における医薬品の安定供給体制の整備や薬局間の連携強化に取り組んできていたが、医薬品卸営業所が無い北部地区における供給体制の確保、在庫・採用薬情報のシステム化遅延によるアナログな小分け業務の負担、さらに在宅医療を担う薬剤師・薬局不足に伴う業務の疲弊などが課題であった。
- ✓ そこで、地域の医療機関や行政機関と連携し、地域フォーミュラを策定することにより、医薬品の安定供給並びに災害対策に貢献、また医薬品在庫情報共有システム導入による在庫把握の可視化や医薬品提供体制の構築に取り組み、将来にわたり持続可能な地域医療の医薬品提供体制を構築を目的として実施した。

実施内容

【医薬品の需給調整及び小分け対応の対応】

- ✓ 医薬品在庫共有システム（システムA）の活用
- ✓ 実施地区：【北部地区】

【地域で流通する医薬品情報・在庫情報等の把握・共有】

- ✓ 医薬品情報共有システム導入に関する説明会を実施
- ✓ 実施地区：【中部地区・那覇地区】

【在宅医療における医薬品提供体制の取組みについて】

- ✓ 未経験の薬剤師・経験の浅い薬剤師対象として、在宅訪問に関する研修会を実施
- ✓ 実施地区：【中部地区】

これまでの成果・効果、今後の展望等

【成果・効果】

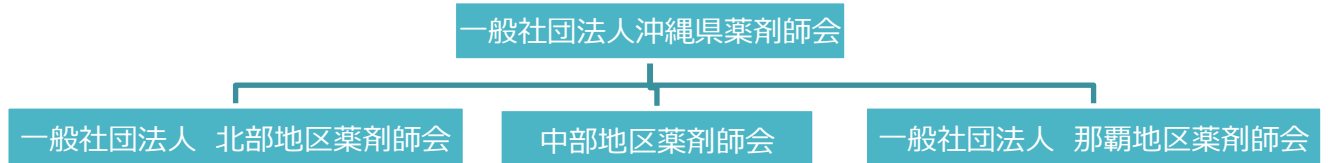
- ✓ 医薬品在庫共有システム（システムA）の活用により、小分け対応が可能な薬局の迅速な特定が可能となった。【北部地区】
- ✓ 医薬品情報共有システム導入のため説明会を開催
参加薬局数89薬局の応募があった【中部地区・那覇地区】
- ✓ 在宅医療に対応する薬剤師・薬局の不足から、在宅訪問に関する研修会を実施。現地：22名 WEB：47名

【課題・今後の展望】

- ✓ 地域の医薬品在庫情報の精度を上げるため、非会員を含めたシステムの導入率向上が課題である。今後行政機関とも連携し導入率向上に努める。
【北部地区】
- ✓ システム契約から本格稼働までの準備期間が極めて短く、プラットフォーム提供社（民間業者A）と既存レセコンベンダーとの技術的・実務的な連携調整に時間を要した。その結果、システム稼働後のデータ蓄積及び、利用実態を詳細に分析・評価する時間が不足した。【中部地区・那覇地区】

実施体制

- ✓ 沖縄県薬剤師会：事業取りまとめ
- ✓ 地域薬剤師会：企画立案実施



主な課題		課題の概要	課題への対応
(1)医薬品等の提供体制	医薬品供給体制の不安定さ	供給不安時に地域内の在庫状況が把握しにくく、薬局が個別対応に陥っている ・へき地対応	・在庫情報共有の仕組みを地域（支部・二次医療圏）単位で整備 ・先行モデルを活用した段階的な横展開 （兵庫県、広島県、鹿児島県、奈良県、長野県）
	麻薬・特殊医薬品への対応	麻薬・注射薬等について、応需可能な薬局が限られている	・薬局間譲渡のルール整備（愛知県） ・地域内でのグループ化・役割分担（愛知県、埼玉県）
	災害時・緊急時の体制構築	災害時や緊急時の医薬品供給体制が未整理	・災害時医薬品のリスト化・医薬品配送経路の画一化検討（愛知県）
(2)薬局間・多職種との連携	薬局間連携の質の地域差	・地域ごとに薬局間連携の取組状況に差がある ・連携に必要なノウハウが共有されていない	・課題の見える化と先行事例の共有・共通様式・共通ツールの活用（東京都）
	在宅医療・退院支援	退院時カンファレンス等への薬剤師関与が不十分	・相談窓口の一本化（鹿児島県） ・基幹薬局等による代理・支援体制整備（鹿児島県）
	多職種連携・情報共有	医療・介護職間で情報が分断されている	・ポータルサイト等による情報集約（鹿児島県） ・多職種が参加する情報共有の場の整備（愛知県）
	人材・体制面の制約	一人薬剤師店舗が多く、人力的余裕がない	・情報の集約を容易にし、組織・運用の標準化（鹿児島県） ・地域全体で支えるバックアップ体制（鹿児島県）
(3) その他	取組への参加促進	システム等への加入・理解が進まない	・説明会・研修会の開催（福岡県） ・比較的低コストで導入可能なシステムの活用採用（鹿児島県）
	事業の継続性	地域での取組みが短期間で終わしやすい	・関係機関による継続的な協議体の設置（愛知県）



今後、これらの成果を踏まえ、他の地域への横展開を進めていく。
この際、個別の取組みを行う上で生じた具体的な課題や解決策を聴取し、それらも共有する。